

東京鷹桜同窓会報

平成 21 年度総会スナップより



昨年度の総会は、平成 21 年 10 月 24 日（土）、日本出版クラブ会館（新宿区牛込神楽坂）にて開催しました。同窓生の出席者は総勢 46 名で、長井本部より山田校長先生、大森副会長、丸川事務局長にご出席いただきました。総会議事は事務局長の進行で、事業報告、会計報告、及び役員人事の議案が上程され、いずれも総会の承認を受けました。

総会後は懇親会に移り、今回、久しぶりに出席された方が多く見え、懇親の度を深め、最後に「天に北斗の・・・」の校歌を全員で斉唱し、次回総会での再会を約して解散致しました。

巻頭エッセイ 「長井線を歩いて通った高校時代」

幹事長 飯澤 武（昭和 36 年卒）

《我々はどこから来たのか、我々は何者か、我々はどこへ行くのか》

この言葉が気になり始めたのは何時頃であったのか、もう思い出せない。

朝、葉山を右後方に見ながら、擦り切れそうな足駄を履いて、線路伝いに時々躓きながら約 4km の道程を成田駅から歩いた。

確か 1 年生の夏休みの終わった頃に父が汽車通学を認めてくれたので線路歩きは止めにしたが、その頃に南長井駅ができたと思う。

朝鮮動乱も収まり、敗戦後の混乱と困窮から少しずつ落ち着きを取り戻して経済的にも多少の余裕ができた頃である。

線路を歩きながらも必ず豆単か何かを読んでいたし汽車の中でも同様であった。

《四当五落》と言って、睡眠時間を 4 時間以内にして勉強すれば大学に合格するし、5 時間以上寝たら不合格だ等と云うことがまことしやかに囁かれていたが、此の頃は本当によく勉強した。因みに睡眠時間を 4 時間にして半月もしたら小便の色が黄色から橙色になり赤色に変わってきたので驚いて中止した記憶がある。

高校を卒業して 50 年もすると全てが遠い記憶の彼方であるが、その頃は何事に対しても真摯であった。とんでもないカオスの中で生きている今の身としては狂おしい程懐かしい過去である。

冒頭の句は、ポール・ゴーギャンの絵の題名だが古稀に近くなった今でも気になって仕方がない。

《私は何者で、どこへ行くのか・・・》



学年幹事より近況報告

長井高校 26 会東京支部便り

高橋 忠三 (昭和 26 年卒)

平成 20 年 4 月 20 日 品川プリンスホテルで喜寿の会開催。今迄の積立金を充当し会費ゼロ、欠席者へは返金し一区切りした。参加者多数で大盛会でした。21 年 3 月 7 日 渋谷・やまがた舟唄で総会開催。議題の中心は「親睦と長寿の思い出作り」で手足の動くうちは集まろう！ いなごの佃煮初め山形料理の数々を堪能 参加者 29 名。同年 10 月 14 日 栃木・高根沢の温泉に泊り、翌日栃木市散策、参加者 12 名、男 6 名、女 6 名。同年 11 月 28 日 芋煮会。材料はいつもの通り長井より取り寄せ 参加者 18 名。22 年 3 月 13 日 平河町の山形県所有の会館 1F・山寒で開催。参加者 30 名。同年 5 月 21 日 置賜の地頭長井氏の住館があったと伝えられている高尾の古城を歩いてみようかと予定しております。会員への連絡網 (Tel/Fax 利用) で 4 月中に伝えます。



同期の交流

片倉 新治 (昭和 30 年卒)

東京地区同期会のきっかけは、1981 年の東京鷹桜同窓会のパーティに 5 名の同期生がたまたま出席したことでした。そのパーティで同窓の方々が活発な交流をされていることがわかり、私たちに刺激を与えてくれました。5 人の仲間は早速 2 次会に行き、「30 年卒同期会」を発足することにしました。その後正式な幹事を決めて、1982 年 9 月第 1 回同期会を新宿の野村ビルで約 50 名が出席し開催しました。東京地区の同期会は、4 年に 1 回のペースで開催しております。うまい具合に長井地区と交互に開催されており、東京、長井ともに出席する人もあり交流が広がっています。しかし、東京地区、長井地区ともに出席者が減少し固定化されるようになってきました。前回 (2006 年) 古希を祝う会として開催した第 6 回同期会は、長井地区と合同し、50 名の出席者がありました。今年は開催年になっています。今年も長井地区と合同し、10 月 20 日に北茨城市の五浦海岸で実施します。

楽しんでます私風老人生活

斎藤 四郎 (昭和 38 年卒)

高校時代の思い出話などを五百字で、という原稿依頼をいただいた。三年間、誰と一体何をやっていたのだろうか。ボケが進んだ頭に浮かんでくるものは少ない。ただ、ほぼ毎日のように自転車で駆け回った長井・荒砥間の風景が懐かしい。ところで同窓会は楽しい。そこに居合わせていない大勢の級友のことにまで話がおよび、「ちゃん・君」付きの顔と職種までが鮮明に思い出される。そして、毎度同じ話題で盛り上がり、万感の思いで家路につく。

庭先に十年程前に植えたマスカットとデラウエアが、律儀にも今年も芽を出し花穂を出してきた。この時期、もう一日も待ってられない作業がある。花が咲く前に余分な芽や新梢を間引きしなければならないのだ。気は急ぐが、それでもやらずに済ますのだろう。昨年もそうだった。きっと強風が吹いて残した新梢も折れてしまい後悔するだろう、日陰づくりが狙いで収穫は二の次だ、他に仕掛りの DIY 作業がいくつも待っている、とか言訳はいろいろあるのだ。もともと性格はアバウトな方だが、近年とみに行動がいい加減になってきたことに加え、優柔不断さが増してきたようだ。それでも他の誰からも責任を問われない。自分だけのための日々の暮らしは陽だまりに居るようだ。

家内はボケ防止にと炊事洗濯いろいろ注文を付ける。四月から近隣の図書館で夜間のアルバイトを始めた。これも老人の楽しみに加えたい。

突然の電話

芳賀 宏 (昭和 40 年卒)

人生で初めて東京の生活を始めて丁度一年が過ぎた時、突然高校時代の同級生の江袋から電話を貰った。この原稿の依頼であったが、殆ど音信不通状態だったのに、何故連絡先が分かったのか、一瞬不思議だった。

そう言えば同窓会名簿に東京の今の住所を記載した記憶があった。高校を卒業してから丁度 35 年が過ぎた。高校を卒業してから北海道の大学へ行き、建設会社に就職し現在に至っており、会社ではトンネル工事一筋に生きてきた。一年前から本社に来て全国のトンネル工事を統括する立場となり全国を飛び回っているが、あの日の一本の電話で若かりし頃の高校時代に呼び戻されたような気がする。自分は本当に高校時代を完全燃焼出来たのか否か、今自分に問うてみると否であるという結論に辿りつく。それを振り返って反省し、今直面している会社人生は完全燃焼するべくやり遂げようと、今改めて心に誓う自分を再確認した次第である。

私は昨年還暦を迎え、今、昭和 41 年 (1966 年) 約 44 年前の長井高校での出来事を書こうとしております。この年ビートルズが来日、加山雄三の「君といつまでも」が大ヒット、一枚 7 円のはがきにリクエストを書き、一袋 20 円の明星チャルメラをすすりながらラジオ番組を聴いていたことを思い出します。こんな時代、ブラスバンドが好きで好きでたまらず、ある行動を起こしました。

当時、高校にはブラスバンドはありませんでした。なんとか創部したいという気持ちで、中学時代の経験者をつのり、実際現場で演奏し、先生方に見て聞いてもらい、これならお金をかけても価値がある、と納得していただくため、即席のブラスバンドを作ったのです。しかし、在校生の中から経験者を集めても肝心の楽器と楽譜はなく、急遽、地元長井中学から一式借用し、車ではなくリヤカーで運びました。ワクワクしながら、一刻でも早く演奏したい一心で、リヤカーを押しました。そしてお披露目は秋の運動会での演奏でした。これがきっかけとなり、諸先生、同窓会などから暖かいご支援を得て、吹奏楽部が誕生する事ができました。中学時代に吹奏楽の魅力にとりつかれ、感動し、引き続き「場」が欲しい、高校にないのはさみしい。そんな同じ思いの仲間が集まり、大きなエネルギーとなって誕生したのではと思います。

翌 42 年、全国吹奏楽大会の県大会に初出場し、見事 C クラスで優秀賞を受賞しました。スリルもあった大会会場の米沢から長井に戻り、中央会館でメンバーとジュースを飲んだ光景は、今でも覚えております。

振り返ってみると、私の 37 年の仕事の原点は、長井高校の早苗ヶ原にたった数十人で思いっきり吹いた音であり、皆さんからの拍手・歓声であったと思います。今でも心地よく心の中に響いております。



第 9 回東北吹奏楽コンクール高校の部〈山形県大会〉於米沢市米沢東高校 '67. 9. 10

* 中央で指揮をとるのが、当時の筆者、今憲行さんです。藤野副会長も奏者の一人です。

私のおすすめの本

「イスラームがわかる事典」 鈴木絃司著 PHP 新書

青木 實 (昭和 22 年卒)

加齢と共に、ほとんど目の前の本を読むのが習慣で、「人生にプラスするものかどうか」を改めて問わずに読むことをお断りしたい。

日本はよく多神教の世界と称せられるが、イスラム教信徒は世界人口の 20%にも及ぶと言われている。イスラム教に関する小冊子は、三冊ほど読了したが、なかなか興味深かった。

これまでの人生、朝、毎日仏壇に線香をともし、先祖の位牌に手を合わせる毎日であった。この習慣を少しも不思議、不合理とも思わず、人生の終わりに近づいている現実、我ながら仏教徒信者としておどろいている。

イスラムは、7 世紀頃にアラビア半島で誕生したと伝えられているが、キリスト教の誕生から数百年の遅れを見せていることが文献に見られる。

俗に、「歴史宗教」といわれるイスラム教は、伝説や神話を基本としないで現実の世界史に裏付けられた歴史宗教といえるもので、その意味で読書に引きつけられるとあってよいのではないだろうか。

平成 21 年度事業報告・会計報告

◆ 平成 21 年度事業報告 (平 21. 10. 1. ～平 22. 5. 31.)

- 10 月 24 日 総会開催 (詳細は 1 頁記載)
 11 月 15 日 事務局会議 (総会改善事項の確認、21 年度業務計画の決定、会則改定案の検討)
 12 月 18 日 事務局業務の引継
 1 月 9 日 事務局会議 (業務引継事項の報告、会員拡大の為の学年幹事の設定、組織化の検討)

◆ 平成 21 年度会計報告 (平 21. 10. 1. ～平 22. 5. 31.)

《一般会計》 単位：千円

収入の部	金額	摘要
繰越額	206	前期より繰越
総会費、会費	441	ゆうちょ銀行への振込
本部援助金	13	長井本部より
その他	0	
合計	661	
支出の部		
総会費	370	出版クラブ 325、シール他
会議費	35	事務局会議
会報費	8	名簿作成費
通信費	1	郵便関係
その他	14	出張費 (長井)
合計	430	

差引残高 230 千円は、次期へ繰り越す

《特別会計》 単位：千円

収入の部	金額	摘要
繰越額	2, 455	基金 2, 430、利息 25
その他	0	
合計	2, 455	
支出の部		
合計	0	

差引残高 2, 455 千円は、次期へ繰り越す

本年度総会のご案内

平成 22 年度東京鷹桜同窓会総会は、平成 22 年 10 月 23 日 (土) 午前 10 時 30 分受付開始で、はあといん乃木坂 (健保会館) で開催します。詳細は別紙案内状。皆様のご参加をお待ちしております。来年も、10 月の第 4 土曜日 (平成 23 年 10 月 22 日) に開催致します。

- 1 月 28 日 支部連絡協議会出席 (長井本部)
 3 月 13 日 事務局会議 (学年幹事の選任計画、会報作成の担当部署、スケジュール等の決定、川野基金残高確認、支部連絡協議会報告)
 5 月 8 日 事務局会議 (総会会場、飲食等の概略決定、会報の内容確認、総会関係予算の決定)

◆ 平成 22 年度予算 (平 22. 6. 1. ～平 23. 5. 31.)

《一般会計》 単位：千円

収入の部	金額	摘要
繰越額	230	前期より繰越
総会費、会費	720	ゆうちょ銀行への振込
本部援助金	13	長井本部より
その他	50	
合計	1, 013	
支出の部		
総会費	400	会場、飲食代
会報、案内、シール	232	佐川 220, サラト 12
会議費	116	事務局会、学年幹事会
出張費	30	会議出張 (長井往復 2 回)
その他	40	予備費他
合計	818	

《特別会計》 単位：千円

収入の部	金額	摘要
繰越額	2, 455	基金 2, 430、利息 25
その他	2	
合計	2, 457	
支出の部		
合計	0	

あとがき (事務局より)

新しい体制に変わって、第一号の発刊です。限られた予算に押さえるため、殆ど手作りですので、技術的に未熟な部分が散見されると思われませんが、ご容赦下さい。但し、内容は、極力多くの同窓生のご意見、近況等を載せていこうという編集方針で臨んでいますので、従来の会報にはなかった面が出ているものと思います。今後もできる限り多くの同窓生の方に、発表していただきますのでよろしくご協力お願い致します。又、投稿も歓迎します。文芸、近況、健康法等何でも、下記住所へメール、又はお手紙をお送り下さい。

* 東京鷹桜同窓会会報第 29 号 編集責任者
 事務局長 沓澤卓 takashi.kutsuzawa@nifty.com
 埼玉県日高市武蔵台 1-42-6 〒350-1255